

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取東 高等学校

重点項目	大学進学	提出日	令和4年4月19日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体性を身につけた、自ら学び自ら考え自ら行動する人を育成する。 2 社会の中で自らの役割を見つけ、一隅を照らすことのできる人を育成する。 3 困難に立ち向かう逞しさ(克己)、他者を思いやる優しさ(親和)、探究する積極性(進取)を持った人を育成する。 	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>将来の夢を語り、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて主体的に努力する力を育成することを目標とする。</p> <p>鳥取の良さに気づき、将来鳥取に貢献したいと考える人間を育成するためには、鳥取県をよく知った上で、グローバルな視点やSDGs等を踏まえて本県の現状や将来像を俯瞰して眺め考察する必要がある。本校では、キャリア教育の中心に「鳥取学」を据え、本県の現状等を生徒一人ひとりが様々な観点から切り込み探究的に考察するとともに、大学等における学問体系との結びつき等を研究することを通して自己の将来設計の基盤を構築するための様々な仕掛けを実施する。</p> <p>併せて、思考力・判断力・表現力が一層要求されることとなる大学入学共通テストや二次試験の研究と対策を進め、高大接続と生徒の実態に対応した教育課程による学習指導の充実を図る。</p> <p><数値目標> 国公立大学の現役合格者140人(現状120人前後)、過卒生を含めた難関大学等合格者10人(現状5人前後)を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者は全員、希望先への就職ができた。 ・進学希望者は、概ね希望する進学先を受験することができた。二次試験に向けた主体的な取り組みも最後まで粘り強くできた。 ・生徒の志望や特徴を生かして、総合型選抜や学校推薦型選抜を活用することができた。 <p><数値結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の現役合格者は150人、難関大学合格者は過卒生を含め4人であった。
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県版キャリア教育推進事業 「ようこそ高校へ」版キャリア塾 …各学年の生徒に対して、進路意識やキャリア意識を高めるため外部講師を招いて講演を実施した。 1年生 7月14日 文理選択に関わる講演会(ベネッセ・和田拓朗氏) 3年生 6月9日 進路実現へ向けての取り組みに関する講演会(河合塾・石橋佑基氏) 	

【独自事業】

・鳥取学推進事業

…進路意識を高め、明確にするために1年次では鳥取を題材にして研究・訪問し、2年次では講演会を行う。

1年生は、12月8日に鳥取県東部地区を中心に企業・研究所訪問を行った。訪問先で地域課題解決に向けたプレゼンテーションを行い、指導助言をもらった。その後、1月19日に改良を加えたプレゼンテーションで校内発表会を開催した。

2年生は、2月9日に県内企業から講師を派遣してもらい、働くことの魅力、就職する意味、高校時代に身につけたい力とは、など多岐にわたる講演を企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため実施できず、次年度へ延期して6月23日に実施予定である。

【その他】

・スタディーサプリ（リクルート）の導入（3年）

…新型コロナウイルス感染拡大を機に、生徒個々に個別最適化された学習方法の模索と活用方法の検討を行った。

放課後補講に取り入れることで、生徒のニーズに応じた講座編成が可能となった。

4 総合所見（成果・評価）

・1年生の文理選択時期に講演会を開催することで、生徒の進路意識の向上と自分自身の進路目標を再確認するよい刺激となった。3年生に対しては、部活動引退後、進路実現へ向けて具体的にどのような取り組みをすればよいか分かり、学習に対する意識の高揚へとつなげることができた。

・「鳥取学」推進事業では、探究的な要素を取り入れて実施した。今までに本校に蓄積されてきたものをもとに、新たな取り組みも取り入れながらさらにブラッシュアップすることができた。

・就職希望者への指導は、前年度末から徐々にスタートすることで、年度当初から高い意識を持って就職へ向けての取り組みができた。そして、大変厳しい状況の中、全員希望する就職先に就職することができた。

・進学希望者は、国公立大学の合格者数が前年度の169名から150名と減少したが、引き続き対卒業生数50%を超えており、健闘している。大学入学共通テストなど、大きく変化する入試制度の中、最後まで諦めず粘り強く受験に向かうことの大切さを生徒へ伝えられたことと、教員が最後まで小論文指導や面接指導をすることで、生徒に受験に耐えうる力を付けて受験へ向かわせることができた。また、難関大学への合格者は目標とする10名には届かなかったが、難関大学の受験者は10名あり、引き続き難関大学を目指す生徒を育成したい。

※枚数任意